

I 「いつも喜んでいなさい」：16。

1. 私達の気分は変わり易い。気分を土台にしては、いつも喜ぶ事は出来ない。

2. 神は不可能な事を命じられない。

喜べる土台、根拠が与えられてる＝「キリスト・イエスにあって」：18。

主イエスの恵みを受けていなければ不可能。この御言葉を実行する力は、私達の気分ではなく、「先行する神の恵み」である。

私達の罪の為に死なれた主の十字架の恵みを喜べる。その十字架による私達の罪の完全な赦しを喜べる。主の復活の恵みにより、復活の命、新しい命、永遠の命を喜べる。

父なる神に今も愛され、永遠に愛され続ける恵みを喜べる。

聖霊なる神による新生、罪を示され、その罪の為に十字架で死なれた主への信仰と信仰告白を与えられた恵みを喜べる。聖霊様により、神との交わり、主を間に置いた、人との互いの交わりが与えられている恵みを喜べる。

素晴らしい主が、どんなにつらい時も共におられ支えられる恵みを喜べる。

究極の喜び＝神ご自身を喜ぶ喜び。

3. 喜びは、霊的な生活にとり、不可欠。

神が下さる喜びがなければ、どんな考えや言葉も行動も不毛なものとなる。主イエスは、神の愛を私達に示されたが、それは、主の喜びが私達の喜びとなり、私達の喜びが完全なものとなる為だった。真の喜びとは、私達が無条件の愛をもって神に愛されている事実、そして、その愛を何ものも（病氣、挫折、苦しみ、圧政、戦争、死でさえ）取り去ることが出来ない事を知る体験。喜びとは、幸せな気分と同じではない。私達は、幸せな気持ちになれない時がある。しかし、主にある喜びはなくなるならない。真の喜びは、神が私達を愛しておられる（私たち自身を喜びとされる愛）恵みを知っている事から来る。主の恵みを知る私達にとり、悲しみと喜びは共存する。

4. 真の喜びは、自らの選択の実。

私達は、喜びとか悲しみは、人生の境遇によると考えてしまう。しかし、事実は、そうではない。自分の人生の境遇を選ぶ事が出来なくても、その境遇、状況にどのように「対処するかは」、主によって選ぶ事が出来る。

二人の人が同じ苦しみに会ったとする。Aさんは、その苦しみにより、恨みの人生となり、Bさんは、その苦しみにあっても感謝の心を持つようになる。その違いはどこに？それは、Aさんは、その苦しみの中で、神と人を恨む事を選んだ。Bさんは、その苦しみの中で、その苦しみの中にも、神のご支配とご計画を認め、その苦しみの中で、神と御言葉を深く知り、自分の罪とその自分への神の恵みを知り、苦しむ人を思いやる事を学び、感謝する事を選んだ。

「苦しみにあったことは 私にとって幸せでした。

それにより 私はあなたのおきて（御言葉）を学びました」（詩篇119：71）。

人生のあらゆる時に、喜びを選び取る機会がある事を認める事は非常に大切。人生には、色々な側面があり、出来事には、悲しい面も喜びの面もある。だから、今を、恨み、不平を引き出す時として生きるか、喜びを引き出す時として生きるかの選択がいつもある。

喜びを選び取れる心を育てる良い方法がある。それは、1日のどこかで、主の恵みを数え、記し、神に感謝する事である。その時、苦しみ、悲しみの中で、喜びも生まれる！聖霊に頼っての感謝には、喜びを生む力がある。

Ⅱ 「絶えず祈りなさい」：17

「いつでも祈るべきで、失望してはいけない」ルカ18：1。

1. 「絶えず」＝朝、昼、夜。仕事、勉強、家事、車の運転の前と最中（心の中で）、終えた後で。
相談を受ける前に（主と共に聴けるように）、最中に（心の中で）、最後に。終えた後にも。神の守りと支えがあるように。喜びの時も、非常に苦しい時も、神の心を注ぎ出す。御心を求める時も。来週の臨時総会（牧師招聘）の為に、1週間、心から祈りたい！
2. ある人が言われた。「祈りは、霊的な呼吸である」。
私達は、呼吸をしなければ死んでしまう。だから祈りは、した方が良いものではなく、なくてはならないもの。霊的命にかかわる不可欠なもの。
「祈りは、神との会話、神との親しい交わり、神の前に静まり、神に聴く宝の時」。
※家族、知人の救いと教会員の為に日々祈りたい。私達も祈られている。
3. 祈りには、二つの面がある。
 - i 神は、霊的な父親として、神の子供とされた私達の正直な祈りを喜ばれる。神に素直に祈りたい。
 - ii 正直に祈った最後に、「みこころをなしてください」とも祈りたい。この祈りを最後に祈る時、平安が与えられる。神は最善の事をして下さる。
主イエスの模範の祈り＝「わが父よ。できることなら、この杯（十字架による愛する父との断絶）をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしが望むようにはなく、あなたが望まれるままに、なさってください」マタイ26：39。

Ⅲ 「すべてのことにおいて感謝しなさい」：18。

1. これまでのⅢ版までの聖書の訳は、すべての事に「ついて」だった。2017年の新しい訳は、原語に忠実である。私は、個人的には、この箇所が原語に忠実に訳された事を喜んでいる。原語は、「すべての事の中で」感謝しなさいとある。「すべての事について」ではない。つまり、私達は、世界で起きている悲しい事件について感謝しない。むしろ、犠牲者の慰めの為に祈る。政治家が悔い改めて、正しい事をやれるように祈る。個人的にも、家族、知人、友人の不幸について感謝はしない。むしろ慰めを祈る。
2. 「すべての事において」「すべての事の中で」感謝しなさいとは、あらゆる状況、環境、境遇の中で、神の恵みを見失わないで、神の恵みを数えて感謝する事である。
衣食住が与えられている恵みを感謝。
教会堂、駐車場が与えられている恵みを感謝。18年間、主が必要を満らし、主の教会を導いておられる恵みを感謝。
宗教法人化、会堂返済完済、御言葉を分かち合い祈り合う恵み、祈りのしおりでの祈り合い、墓地、子供賛美、次世代への信仰継承、祈り合い支え合う兄弟姉妹、新しい方が与えられている恵みを感謝。
今日の命が与えられている恵みを感謝する。目、手、足、口、耳を感謝。
神が先に選んで下さり、主の十字架の恵み、聖霊により、罪が示され、赦され、主を信じ救われた恵み、集う教会が与えられている恵み、この地上でも主が支えられ、時満ちて、死を迎えても、主が迎えて下さる天国に行ける恵みを感謝。
この世の終わりに、主が、再びこの世に来られ、すべての悪が正しく裁かれ、救いが完成し、新しい天と地が造られ、素晴らしい三位一体の神に永遠に愛され、神と親しく交わり、新しくされ、全く聖められ罪がなくなり聖徒とされたお互いが、新天新地で、永遠に愛し合う交わりの恵みを感謝。私達はただ神の憐みの負債者！いつも喜び、絶えず祈り、すべての事において感謝する者へ変え続けて下さい！